自然体で暮らす／いなか王国・高知県安田町

まんま

Vol.16

Enjoy Country Life
YASUDA TOWN

「第16号」2015 MARCH（3月）

集落活動センター「なかやま」（旧安田町立中山小・中学校）
「当時の面影はそのままにリニューアル」

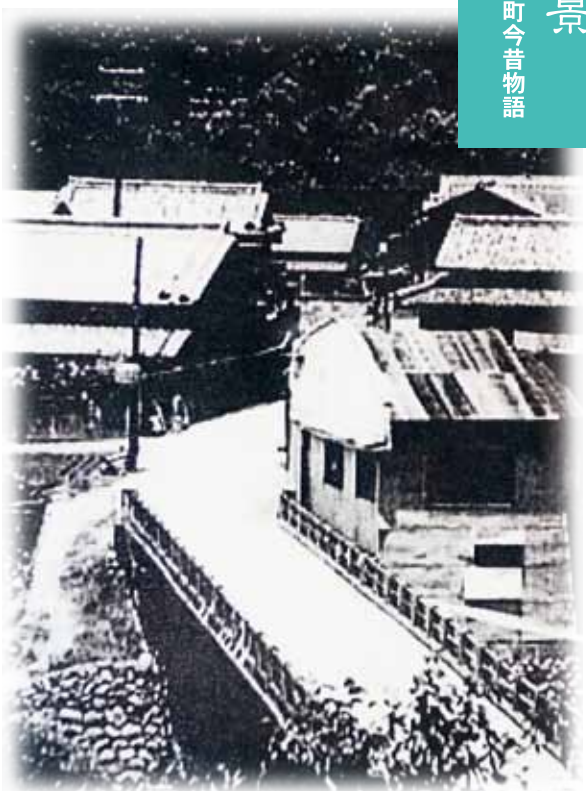
安田町長
有岡　正幹

～発刊に寄せて～

町外でご活躍されている皆さんに、ふるさと安田町が変わらず活気に溢れていることを伝えられるよう、これからもしっかりとしたまちづくりを進めてまいります。

ぜひ旧懐の情をあたためにに帰郷していただき、今の安田町の姿を見ていただきたいと思います。

ふるさと百景
安田町今昔物語



昭和37年頃の正弘橋

安田町

「ちっと、ぬくうなったかねぇ」
そんな言葉が聞こえたら、
安田町の春はもうすぐそこです。
山には柔らかな緑が戻り、川の水もぬくうなって…。
早う、早う。待ちゆうきね、春の訪れ。

Contents

3　地域の活性化にガンバッてます！
中山地域をみんなで元気に！

5　安田町へIターン
養鶏家 宮﨑孝二さん
「趣味に充実の毎日です」

7　ハッケン！町の魅力
県東部唯一の映画館
「大心劇場」

9　全国の左党を魅了する
「南酒造場」

10　町に吹きこむ新しい風
東京映画社 安田サテライトオフィス

11　地域のみなさんに愛されて
土佐の元気市、5周年

12　安田町のファンづくり
体験バスツアー・収穫体験

13　番外編◎ふるさとの景色、安田川

安田町ふるさと応援隊の活動、活発化

中山地区をみんなで元気に!

「集落活動センターなかやま」が完成し、安田町ふるさと応援隊の活動も本格化してきました。センターを拠点に、住民が参加して地域に元気を取り戻すための取り組みを紹介します。

高知大学のボランティアとともに行った自然薯の植え付け

特産の自然薯をもっと増産しよう!

平成26年12月14日(日)、「なかやま山芋まつり」が開催され、師走の中山地区が町内外から訪れた1200人もの人でにぎわいました。毎年恒例となったこのお祭り、特産の自然薯の即売に加え、山芋汁やアユ寿司、ナスのたたきなどの安田町の味や、近隣町村からの特産品が販売されました。

祭りが盛況に開催される一方で、祭りには大きな課題がありました。生産者の高齢化に伴って、年々自然薯の生産量が減少。祭りでも十分な量が確保できず、早い時間に売り切れになってしまっていました。「せっかく来てくれた人に申し訳ない」こうした思いから、自然薯増産の取り組みが始まりました。

中心になったのは、住民グループ「なかやまを元気にする会」の皆さん。昨年春から休耕田を使って、自然薯の共同栽培を開始しました。会のメンバーに加えて、高知大学の学生もボランティアとして農作業に参加。昨年は約100kg、300本の自然薯を収穫。祭りで販売し、中山地区の特産品のPRにひと役買いました。今年はさらに増産し、800本の収穫を計画しています。

大勢の人が訪れた「なかやま山芋まつり」

中山地区の魅力 このままでは、もったいない

このような地域づくりの取り組みの推進役として活動しているのが、「安田町ふるさと応援隊(地域おこし協力隊)」の面々です。平成25年度から活動している小倉祐輔さん(24歳)に加えて、26年度には横田光貴さん(29歳)と西岡正彦さん(59歳)が新たに隊員に着任しました。

安田町ふるさと応援隊のメンバー
左から 西岡正彦さん 横田光貴さん 小倉祐輔さん

横田さんと西岡さんは中山地区の出身です。

「あまり知られていませんが、中山地区には趣のある神社などがあるんです。そんな地域の魅力を掘り起こして発信していきたいですね」と抱負を話す横田さん。一方、西岡さんは「高齢化が進むのは仕方がない。でもお年寄りが助け合って、安心して老いていけるような地域になるよう、自分のできることをやっていきたい」と語ります。

集落活動センターなかやまの多目的室(上)と調理室(下)

また昨年は地域づくりの拠点となる集落活動センターを、平成19年に廃校になった旧中山小中学校に整備しました。懐かしい学校の雰囲気はできるだけ活かしつつ、地域の集いの場として使えるようにリニューアルしています。応援隊ではセンターをフル活用し、地域の活性化に向けた活動を展開していく予定です。

「かつて小中学校だったことからも子どもたちが集まるようなイベントを開こうと計画しています。地域住民とも交流できるような企画にしていきたいですね」と横田さん。このほかにも、自然薯の特産品化に向けた取り組みやみやげ物の開発、高齢者の買い物と交流支援のための「おしゃべりバス」の運行など、さまざまな活動が計画されています。

「中山地区にはまだまだ、地域資源がいっぱい埋もれています。これはもったいない。私たちがいろいろな仕掛けをすることで再発見してもらい、地域の皆さんの活性化に向けた取り組みの足がかりになればと思います」と小倉さん。住民の笑顔が絶えない元気な地域になるために、応援隊の活動が続きます。

安田町に移住して良かった!

「趣味に充実の毎日です」

高知市から移住してきた宮﨑孝二さんとそのご家族。趣味を楽しむ安田ライフを送っています。

母ゆかりの里で小軍鶏(こじゃも)を育てる

3年前に安田町に引っ越してきた宮﨑さんご一家。宮﨑さんの母が安田町の出身という、ゆかりの地への移住です。

「私自身、室戸市吉良川の生まれなので、安田町はなじみの深い場所です。田舎でのんびりと暮らしたいと思い、移住を考えました」と宮﨑さん。しかも、現在住んでいる家は偶然にも母のいとこがかつて住んでいたものだとか。不思議な縁で結ばれているようです。

気になる仕事はというと、インターネットを活用して古物商を営んでいます。安田町はネット環境が整っているので、中山間地といえども不便はないとのことです。

安田町に移り住んで、大きく変わったことは趣味の再開です。宮﨑さんの趣味は、軍鶏(しゃも)の一種の小軍鶏(こじゃも)という愛玩鶏の飼育です。一時期縮小していましたが、安田町に移ってから再び本格的に楽しみ始めました。

「小軍鶏は国の天然記念物なんですよ。飼育はとても難しいのですが、手をかければかけるほど美しく育つ。その魅力にはまりました」

実は宮﨑さんは小軍鶏の飼育で数々の表彰を受けています。平成10年には日本愛玩鶏協会の理事長賞を受賞。また高知県教育委員会からは、指定天然記念物日本鶏の飼育と審査に専念し、貴重な種族の保存に顕著な業績をあげられたことに対して感謝状が寄せられています。今年1月にも高知市の品評会で優勝しました。

日本愛玩鶏協会からの賞状

現在は小軍鶏のほかに、ウコッケイやミノヒキなど鑑賞用の鶏を30羽ほど飼育。自宅前やガレージに鶏舎を並べ、朝夕に鶏の世話を欠かしません。

「小学校1年生と1歳の2人の子どもも鶏に興味津々。特に上の娘は、水差しを洗ったり卵を採ったりとよく手伝ってくれるんですよ」

子育てがしやすい環境がうれしい

安田町への引っ越しを、家族の中で一番喜んでいるのは妻だ、と宮﨑さんは言います。

「安田町は子育ての環境も抜群!それに町が子育てに力を入れているなと感じることが多いです」と奥様の智夏さんがその理由を教えてくれました。

「やはり、子どもたちを育てる環境を考えて安田町に移住してきたので、豊かな自然の中で子どもたちが成長するのはうれしいことですね」と宮﨑さんも話します。安田町で暮らし始めてから病気をしなくなったとのこと。上のお嬢さんは安田小学校に元気に通っています。

「都会ではどうしてもあわただしい暮らしになる。家族みんながゆったりと暮らせることができて、いまは本当に幸せですね。ご近所の皆さんにもよくしていただいて…。住みやすいいい町で、引っ越してきて本当に良かったと思います」

宮﨑さん自慢の小軍鶏

愛玩鶏の魅力と安田での暮らしについて語る宮﨑孝二さん

安田町に文化のともしび 県東部唯一の映画館「大心劇場」

安田町中山地区の山間にポツンとたたずむ映画館、「大心劇場」。高知県東部でひとつしかない映画館には、昔懐かしい昭和の風情があふれています。

60年以上にわたり映画を上映

大心劇場のルーツは、昭和29年に中山地区正弘の橋のたもとにできた「中山映劇」です。その名を聞くと、「懐かしいなあ」と思い出す人も多いことでしょう。その後、昭和59年に現在の場所に移築し、「大心劇場」とその名も改めました。今日まで60年以上にわたって、安田町にシネマのともしびを掲げてきた映画館です。現在の館主、小松秀吉さんは、中山映劇を開いた父の跡を継ぎ、昭和57年から映画を上映してきました。

「映画は斜陽産業になってしまっちょったき、なんでわざわざ移築してまで映画館を続けるのか、何で跡を継ぐのかと思った人も多かったやろう。今だって、経営的にはとても厳しい。でも、子どものときから映画館がある環境に育ったぼくにとっては、映画館がなくなることは考えられん」

ひとりでも観客がいる限り

テレビの普及やシネコンの隆盛などの逆風が吹くなか、それでも大心劇場を続けてこられたのは、小松さんの八面六臂の活躍があります。映画会社との配給の交渉や切符のもぎり、宣伝用の看板描きまでひとりでこなします。さらには劇場の隣で喫茶店も営み、ミュージシャンとしても活躍しています。

「全部自分でやるき、何とか経営できるがよ。うちは、ひとりでも観てくれる人がおったら上映すると決めちゅうきね」と笑います。

映写機の操作も小松さん自身。1台の映写機で上映するため、フィルムをつなぐ「流し込み」といわれる難しい技術を駆使します。このような技術を持つ映写技師は全国で小松さんだけだといわれています。

「時代はデジタル映写機やけど、うちみたいなこんまい(小さい)ところはよう入れん。けんど、アナログフィルムでしか出せない、目に優しい味のある美しい映像の世界がある。うちの劇場でそれを楽しんでほしい」

数々の色紙に囲まれた往年の映写機

昭和の時代にタイムスリップ

大心劇場の館内は、まさに昭和30年代の雰囲気がそのまま残っています。壁一面に映画のポスターがびっしりと貼られ、まさに壮観のひと言。100席ある客席に座っているだけで、タイムスリップしたような感覚に陥ります。こんなユニークな映画館の風情にひかれて、俳優や映画監督など多くの映画人が大心劇場に訪れています。

「ある俳優さんなどは、ここで1時間ポスターをじっと眺めていました。そして皆さんから、『これからも続けてよ』と言っていただける。止めるわけにはいかない。死んでも続けないかん、と思いよります」

高知県の東部でたった1軒の映画館。大心劇場はこの場所にあるからいいのだと、小松さんは言います。

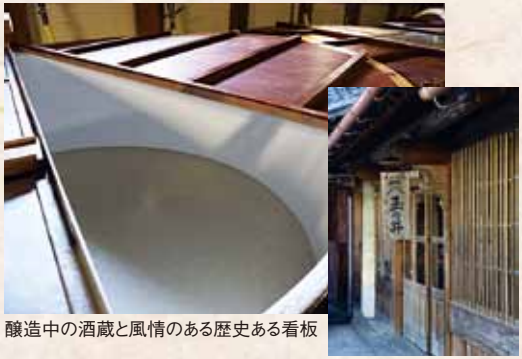
「大心劇場で映画を見て、外に出てみると緑深い山や美しい川が見える。だからいつまでも作品の余韻に浸ることができる。田舎だから、安田町だから、皆さんに愛される劇場なんだと思います」

活躍するフィルム式映写機

懐かしいポスターが残る館内

大心劇場館主 小松秀吉さん

土佐漆喰の白壁が町並みに風情を 全国の左党を魅了する「南酒造場」


醸造中の酒蔵と風情のある歴史ある看板

国道55号線から県道を北に入って安田町の中心部へ。ほどなく現れる南酒造場の酒蔵が、町並みの風情を印象付けます。

「酒蔵としては明治2年創業ですが、それ以前は廻船問屋を営んでいました。建物も築200年になります」と教えてくれるのは、15代目蔵元の南卓治さんです。屋内も昔ながらの構造で、大きな魚梁瀬杉の梁がひときわ目を引きます。

南酒造場といえば、安田町の出身の方には「玉の井」という銘柄がおなじみでしょう。現在も地元に愛される酒として、変わらぬ味を造り続けています。そして現在の主力銘柄が、その名も「南」。平成10年から製造しています。

「高知の酒は『淡麗辛口』とよく言われますが、「南」はしっかりと味がある芳醇旨口でキレのある酒です。都市部をターゲットにした、うちの主力商品です」と南さん。全国の日本酒好き垂涎の酒として人気が高く、海外に輸出もされる人気銘柄です。

酒蔵の歴史と高知の酒について語る南卓治さん

蔵元とともに南酒造場の酒造りを担う杜氏の岡田隆博さんは安田町での酒造りについて、「何よりも水がいい。ここは山からの水なので、辛口でもふくらみのあるいい酒ができる」と話してくれました。

「いくら人気が出ても、目が届く規模での酒造りにこだわりたい」と話す南さん。安田町の酒造りが全国へ、そして海外へと広がっています。

南酒造場杜氏の岡田隆博さん

しっかりと味がある芳醇旨口「南」

地域の宝を発信します!

東京映画社 安田サテライトオフィス

東京映画社
安田サテライトオフィスの
古味竜一さん

昨年4月から安田町にサテライトオフィスを開設した、東京の映像制作会社「東京映画社」。社長の百々(どど)立夫氏が高知県東部の出身だったことが縁となり、同社の誘致が実現しました。

「手つかずの自然が残る安田町や高知県のさまざまな場所を撮影し、全国に発信するのが安田サテライトオフィスの大きな役割です。4Kという高解像度で撮影している点が、当社の強みですね」と話すのはカメラマンの古味竜一さんです。たとえば県出身のミュージシャンのコンサートでは、ステージの背景として流す映像を県東部の風景を撮影して制作しました。

ラジコンヘリコプターでも撮影されます

一方で、安田町への地域貢献も積極的に展開しています。昨年夏は安田小学校の子どもたちと安田町のPR映像を制作。子どもたちは映像制作という新しい世界にチャレンジすることができました。

「他にも小川地区の獅子舞の昔の写真を新たに撮影したり、なかやま山芋まつりの記録映像もボランティアとして撮影しました。美しい風景を撮らせていただく、この土地に対するリスペクトのような思いから生まれた活動ですね」

現在は仮事務所ですが、春からは中山地区に整備されたシェアオフィスへ入居。同社の本格始動に、町住民からも期待が集まります。

安田町のCMづくりの準備をする児童らとともに(高知新聞社提供)

おいしい焼きたてパン

地域の皆さんに愛されて「土佐の元気市」5周年

総合交流拠点施設「輝るぽーと安田」の一角にある地場産品販売センター「土佐の元気市」。町外から訪れた人に向けて安田町の特産品を販売するほか、安田町に暮らす人のための買い物の場にもなっている同施設。観光客がおみやげを選ぶ一方で、地域の住民が野菜や日用品を買っていく。そんなちょっと変わった情景が見られる店です。この「土佐の元気市」が昨年、5周年を迎えました。

運営をするのは、地元女性の団体「みきグループ」。代表の小松美喜さんはこの5年間を「本当に、あっという間」と振り返ります。

「大切にしてきたのは、お客様の声を聞くことです。お客さんにとって何が必要なのか、地域の皆さんの声を聞いて品揃えを決めてきました。おかげでオープン当初に比べて、品揃えは倍になりました」

このような努力が実を結び、5年たった今でも客足が落ちることがありません。平成25年には移動販売も開始。高齢者の集まる集会所などを回って、日用品や生鮮食品を販売しています。今ではすっかり定着し、待っている人も多いとか。

「店が軌道に乗ったのは、お客様のおかげだと思います。これからも、地域の皆さんの役に立てるよう頑張ります。また、地域の特産を使った『土佐の元気市』オリジナル商品の開発もやっていきたいですね」とこれからの抱負を語ってくれました。

みきグループ代表
小松美喜さん

お惣菜も豊富です。

〝安田町のファンづくり〟安田(あんた)と体験バスツアー

しゅっぱーつ!安田町へ

安田町では、もっと町外に町の魅力を発信しようと、平成24年度から〝安田町のファンづくり〟を目的に「安田(あんた)と体験バスツアー」を開催しています。ツアーでは農作物の収穫体験や、収穫した野菜を使ったピザ焼き体験などを行い、安心・安全でおいしい安田町の野菜や豊かな自然をアピールします。

昨年は6月28日(土)に第3回目を開催。高知駅を出発した車内では、町で生産されている多彩な農作物を紹介するなど、安田町をPR。到着後は2班に分かれ、ナス・ピーマンの収穫体験を行いました。参加者の皆さんは生産者からの説明に耳を傾けた後、野菜の収穫に熱心に取り組みました。その後、この日の収穫体験で採れた野菜と生産者から提供された野菜などを使って、ピザ焼き体験を楽しみました。

ツアー参加者には「日常ではできない貴重な体験」「自然がいっぱいで、子どもも大人も楽しめた」などと好評で、「また安田町に来たい」というれしい感想も寄せられました。

町ではこれからもさまざまな交流事業を積極的に行い、〝安田町のファンづくり〟を進めていきたいと考えています。

赤いピーマンの方がおいしいらしいヨ!

うわ~初めて!ナスの収穫楽しいな。

緑のピーマン、赤いピーマン美味しくな~れ!

準備完了!今から、ピザを焼いていきます。

焼き上がったピザをみんなで試食しました。新鮮な野菜に舌鼓!

町自慢のアコも美味しかったヨ!

番外編

ふるさとの景色、安田川

まちのシンボル、安田川。清流に棲む美味しいアユで有名ですが、上流から土佐湾に注ぐ河口まで、四季折々の美しい表情を魅せてくれます。いつまでも残したい心に宿るふるさとの川、安田川の景色をお楽しみください。

ぐるっと曲がりくねった面白い場所。

澄みきった美しい流れ。明神口橋(国重文)の下で。

集落活動センター「なかやま」(旧中山小・中学校)付近のどかな風景が広がります。

ほたるの里河川公園前。ゴロゴロとした石とゆるやかな流れの表情が美しい。

島石ピクニック広場の下流。上流域ならではの山の美しさも。

清みごごちの良さにワタシも大満足!

ほたるの里河川公園の桜とともにまちの下流を望む。

焼山橋から上流を。

とうざいじまばしと新東西島橋の間。太公望に人気のスポットのひとつ。

information

フワフワのシフォン生地に
細かく切った柚子の皮がベストマッチ!
柚子のシフォンケーキ

※イメージ

シュークリーム生地の上にメロンパンの
クッキー生地をのせて焼き上げました。
メロンパンシュークリーム

ベリージャムを
生クリームでサンドした
絶妙な苺ケーキです。
苺のショートケーキ

まち自慢の食材でつくる季節の極上スイーツ

安田(あんた)と夢ファクトリー キララ

好評発売中!

安田町でとれる果実や、近隣の食材を使ったスイーツが盛りだくさん。生産者が近く、フレッシュな味わいが好評です。
ケーキ類のほかに、メロンパンシュークリームや甘酸っぱいマンゴーソースとクリームチーズが絶妙なマンゴー大福「安田(あんた)の白い夢」など人気商品も勢ぞろい。町に帰ってきたときは、ぜひ味わってほしい極上スイーツです。

※季節により、商品内容が変わる場合があります。

販売・お問い合わせ先
安田と夢ファクトリー　キララ
〒781-6421 安芸郡安田町安田1760-1
TEL.0887-30-1735
営業時間/10:00～18:00
定休日/火曜日(祝祭日の場合は翌平日)

編・集・後・記

故郷安田町の「元気」と「魅力」をお伝えできるような内容を目指しました。皆さんご意見・ご感想をお待ちしています。

お問い合わせは
安田町役場 総務課
〒781-6421　高知県安芸郡安田町大字安田1850
TEL.0887-38-6711　FAX.0887-38-6780
HP　http://www.town.yasuda.kochi.jp/home.htm
E-mail ysd-somu@town.yasuda.kochi.jp

安田町役場 中山支所／〒781-6430　高知県安芸郡安田町大字正弘716-2
TEL.0887-39-2008　FAX.0887-32-4008

2015.3-2000